

みんなのあたたかさが集まって

学校長 梅田 比奈子

今年のスポーツフェスティバルは、雨のため二日間に分けての開催となりましたが、子どもたちは、両日とも、全力でがんばっていました。一生懸命がんばる子どもたちの姿は、本当に素敵です。そして、スポーツ推進委員の方や保護者の皆さんが率先してどんどん片付けてくださり、とてもあたたかい気持ちになりました。「瀬小は、多くの人に支えられているな。」とスポフェスを通して強く感じました。皆様のご協力に感謝いたします。本当にありがとうございました。

先日の授業参観では、「人権教育」として、直接人権にかかわる内容を取り上げで、授業を行いました。「友達の良さを見つける」「信頼について考える」「一人ひとり違うということを受けとめる」「人権課題について取り上げ、話し合う」等、様々な内容があったかと思えます。横浜市では、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校を目指して人権教育に取り組んでいます。そして、本校は、横浜市の人権教育センター校として、様々な取組を行っていますが、現在の中心は、自尊感情を高めることとコミュニケーション力を育むことです。「自分っていいな。自分って大事なな。」と思えることが、「周りの人も大事。」ということにつながっていきます。そして、人と人がつながるためには、よりよいコミュニケーションがとれることが大切です。今回の授業でも、子どもたちのいい表情や、友達の意見をしっかりと聞いたり、積極的に話し合ったりする姿が見られていましたら、うれしいです。そして、そのようなあたたかな空気をまちに広げていけたらと思っています。

10月17日に、柳町ケアプラザの方が瀬ヶ崎小学校に来て下さいました。これは、4年生の子どもたちが、「地域のおじいちゃんやおばあちゃんとふれあいたい。」という思いからスタートしています。「ふれあうなら、ケアプラザかな?」ということ考えた子どもたち。まず、教師がケアプラザに行って、ケアプラザについて、学んでくることにしました。そこで、教えていただいたのが、「認知症サポーター養成講座」です。今まで、幼稚園・保育園や中学校では講座を行ってきたケアプラザの方々ですが、今回、初めて小学校で行うことになり、10月17日の来校につながったのです。

「認知症になるとどんな症状がでるの?」「認知症の方に出会ったら、どうやって手助けをしたらいいの?」など、子どもたちは、様々なことを学びました。私たちにとって、必要なのは、「やさしいまなざし」。子どもたちには、「困っているお年寄りに出会ったら、大人の人に話してね。」と伝えていただきました。授業を受けた子どもたちは、自分だったら、こんなことができるなということを書いています。

- ・元気がなかったり、失敗をしたりしたときにやさしく声をかけることができますと思います。
- ・困っている人に声をかけて、困っていることがあったら手伝おうと思います。
- ・困っている人がいたら、「大丈夫ですか?」と声をかけます。

子どもたちは、どんな人でも大切な一人である事やコミュニケーションをとる事の大切さを感じていました。子どもたちが、考えた事は、すべての人に対して大事なことだと思えます。そして、みんなのあたたかさが集まって、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できるまちになっていくのだと改めて思いました。

